

SSH中間評価（平成 30 年度指定）の結果について（総括）

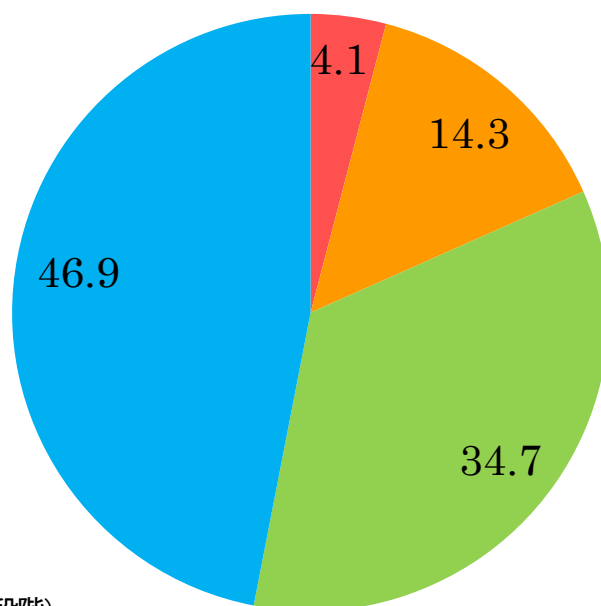
対象校 49 校について、SSH企画評価会議協力者による総合評価及び項目別評価を行った。

※項目別評価の「評価の目安」を見直しており、昨年度との単純比較はできない。

I 総合評価

項目別評価の結果を合計し、6段階評価で行った。一定程度以上の高い評価を受けた学校が半数以上だった一方で、一層の改善努力が求められる学校が半数近くあることが認められた。なお、このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われる学校や今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成が困難であると思われる学校はなかった。

(1) 構成比



評価の目安（6段階）

- 優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される（2校：4.1%）
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される（7校：14.3%）
- これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる（17校：34.7%）
- 研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される（23校：46.9%）
- このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される（0校：0%）
- 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される（0校：0%）

(2) 各対象校の状況

「優れた取組状況であり、研究開発のねらいの達成が見込まれ、更なる発展が期待される」 (2校)

国立大学法人広島大学附属高等学校

鹿児島県立国分高等学校

「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される」 (7校)

群馬県立前橋女子高等学校

東京都立立川高等学校

新潟県立新発田高等学校

新潟県立新潟南高等学校

愛知県立一宮高等学校

大阪府立大手前高等学校

島根県立出雲高等学校

「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる」 (17校)

北海道釧路湖陵高等学校

学校法人豊島岡女子学園 豊島岡女子学園高等学校

神奈川県立希望ヶ丘高等学校

新潟県立高田高等学校

新潟県立長岡高等学校

福井県立高志高等学校

福井県立武生高等学校

静岡市立高等学校

愛知県立時習館高等学校

三重県立津高等学校

三重県立四日市高等学校

大阪府立高津高等学校

大阪府立四條畷高等学校

兵庫県立神戸高等学校

徳島県立城南高等学校

愛媛県立宇和島東高等学校

熊本県立宇土中学校・宇土高等学校

「研究開発のねらいを達成するには、助言等を考慮し、一層努力することが必要と判断される」 (23校)

宮城県多賀城高等学校

秋田県立秋田中央高等学校

秋田県立横手高等学校

茨城県立緑岡高等学校

埼玉県立越谷北高等学校

学校法人芝浦工業大学 芝浦工業大学柏中学高等学校

学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部

学校法人中央大学 中央大学附属高等学校

新潟県立柏崎高等学校

愛知県立岡崎高等学校

愛知県立豊田西高等学校

愛知県立半田高等学校

学校法人立命館 立命館守山高等学校

大阪府立住吉高等学校

兵庫県立龍野高等学校

学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校

学校法人鷄鳴学園 青翔開智中学校・高等学校

山口県立下関西高等学校

愛媛県立西条高等学校

長崎県立大村高等学校

長崎県立長崎南高等学校

鹿児島県立鹿児島中央高等学校

沖縄県立球陽高等学校・球陽中学校

「このままでは研究開発のねらいを達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の変更等の対応が必要と判断される」 (0校)

「現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても研究開発のねらいの達成は困難であり、スーパーサイエンスハイスクールの趣旨及び事業目的に反し、又は沿わないと思われるので、経費の大幅な減額又は指定の解除が適当と判断される」 (0校)

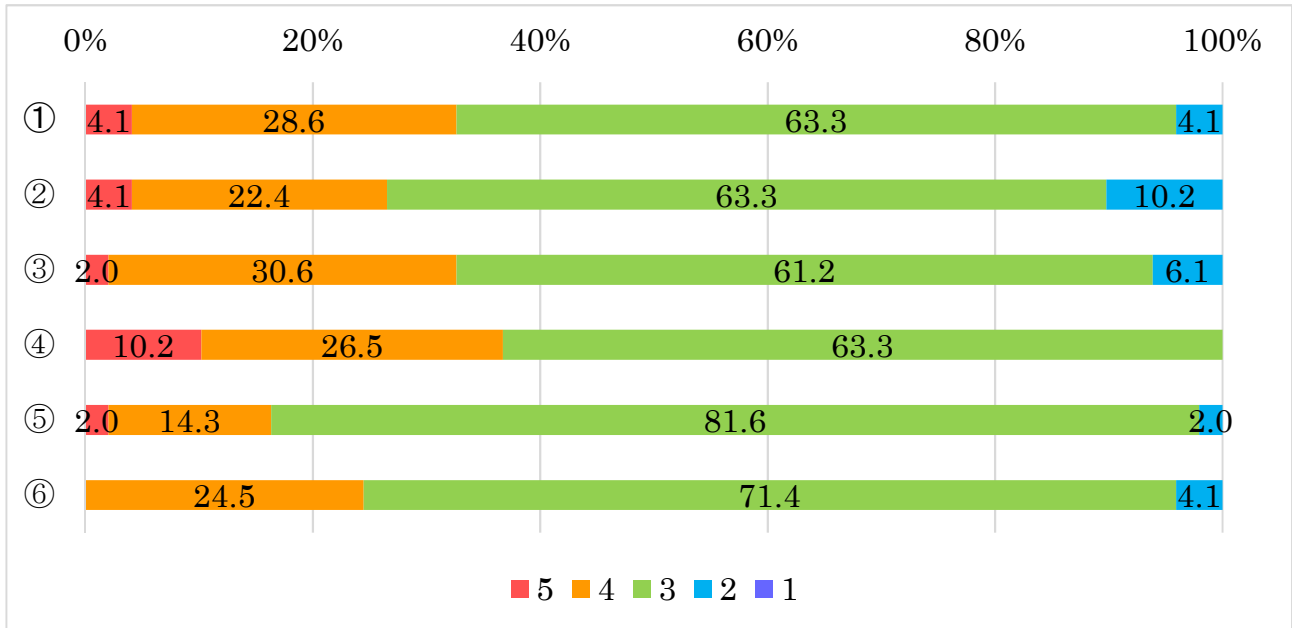
Ⅱ 項目別評価

下記①～⑥の各評価項目について、5段階評価で行った。

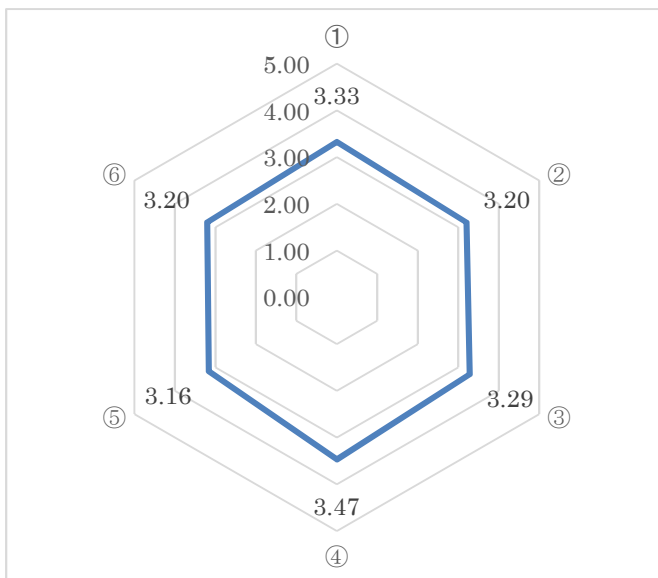
(項目)

- | | |
|---------------------------|-------------------------------------|
| ①研究計画の進捗と管理体制，成果の分析に関する評価 | ②教育内容等に関する評価 |
| ③指導體制等に関する評価 | ④外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価 (2項目選択制) |
| ⑤成果の普及等に関する評価 | ⑥管理機関の取組と管理体制に関する評価 |

(1) 項目ごとの構成比



(2) 項目ごとの平均値



<評価の目安(5段階)>

- 5：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもののうち、特に程度が高いと思われるもの
- 4：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容が十分達成されていると思われるもの
- 3：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容がおおむね達成されていると思われるもの
- 2：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の達成が不十分であり、取組の見直しを要すると思われるもの
- 1：研究開発のねらいの実現にあたり、評価項目の内容の大部分が達成されておらず、抜本的な見直しを要すると思われるもの

(3) 項目ごとの概況

① 研究計画の進捗と管理体制、成果の分析に関する評価について

- ・多くの指定校において、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、海外連携をはじめ、計画の見直しが余儀なくされていた。しかし、そうした中でも、Web 連絡ツールにより工夫して探究活動を進めている例や、オンラインや地元の大学の留学生を招聘しての講義や交流を代替として行う例等も見られた。さらに、オンラインの利点を生かし発表の回数を前年度より大幅に増やした例や、クラウドサービスを導入し、かつ、それに伴いICTに関する研修を行う例等、優れて積極的に取り組むものも見られた。
- ・研究計画の管理体制については、SSHを担当する部が取組を推進しつつ、委員会が全体統括を行うなど、工夫しながら全校的な体制を構築している例が多く見られた。中には、企画会議を週時程に位置付けるなど、定期的に、企画・検討や進捗確認を行う例が見られ、さらに、新設した校務分掌が学校の核として機能するなどして、業務の整理や精選が進み、教員の負担軽減にもつながっている例も見られた。ただし、教職員の共通理解が不足し、全校体制の形骸化が懸念される例等も一部に見受けられた。
- ・成果の分析については、生徒への意識調査やルーブリックを用いた評価等により、生徒や教師の変容を測定する様々な例が見られた。多様な指標を組み合わせたり、卒業生の追跡調査も行ったりするなど、工夫して意欲的に成果の分析を行う例も見られた。ただし、分析方法がアンケートのみだったり、目的・目標と成果の分析との整合性に疑義があったりする例等も一部に見受けられた。
- ・運営指導委員会の指導を踏まえ、大半の指定校は、適切に改善を図っていた。ただし、同委員会での議論の記録や、指導を受けた改善が十分でなく、しっかりとした取組が望まれる例も一部に見受けられた。

② 教育内容等に関する評価について

- ・理数系の独自の学校設定科目を設けたり、数学の各科目の内容を理科の学習進度を考慮しながら再編成したりするなど、理数系教育に重点を置き、教科・科目を工夫して教育課程を編成している様々な例が見られた。ただし、当該学校としての特色が半然としない例も一部に見受けられた。
- ・課題研究について、3年間を通して系統的に取り組んでいくなど、工夫した取組を行っている様々な例が見られた。ただし、教育課程上で十分時間が確保されておらず、研究の深まり等に懸念がある例も一部に見受けられた。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点を踏まえ、課題研究や探究的な学習活動と通常教科・科目との連携を図るとともに、通常の科目の授業においても探究的な学習活動に取り組んでいる様々な例が見られた。ただし、課題研究と他の教科・科目との連携が不十分な例等も一部に見受けられた。
- ・多くの指定校において、SSHのねらいに即した特色ある教材を様々開発していた。なお、ホームページ上での公表が未だ行われていないものもあったが、そうしたものについては、早急の対応が求められる。また、作成した教材を洗練させるとともに、他校での実践結果のフィードバックを受けるなどして、取組を更に進めることが期待されている。

③ 指導体制等に関する評価について

- ・多くの指定校において、理科や数学以外の教員も含めた全校的な指導体制を構築していた。課題研究等においてグループ研究や個人研究を組み合わせるなど、工夫して積極的に取り組んでいる様々な例が見られた。
- ・大学・企業等の外部講師や、卒業生や大学院生のTA等の外部人材を活用しながら、生徒に高度かつ幅広い興味・関心に応じた指導を行っている様々な例が見受けられた。
- ・全教科での互見授業の実施、他校との合同研修会の開催、指定校の経験年数の長い教師と新転任の教師とを意図的に組み合わせた指導体制の構築等、教員の指導力向上に向けた様々な取組が見られた。

④ 外部連携・国際性・部活動等の取組に関する評価について

- ・大学や研究機関、企業等との連携、地域や他の指定校等との連携、国際性を高める取組、教育課程外の活動の充実等について、多くの積極的な取組の例が見られた。いくつかの指定校においては、大学や自治体と協定を締結し、組織的・安定的に連携していた。中には、同窓会を通じて外部指導者を紹介してもらう制度を設けている例や、卒業生の団体と課題研究の支援に関する覚書を交わしている例も見られた。ただし、単発の取組に留まっている例や、連携等が研究開発の目的・目標に照らし効果的なものになっているかといったことについて吟味が望まれる例が一部に見受けられた。
- ・地域等との連携については、地域の小中学校での理科実験教室の開催、他校も含めた課題研究発表会の開催等の様々な例が見られた。中には、地域の理数教育の核となっている例も少なからず見られた。
- ・国際性を高める取組については、語学力の育成を中心とせず、科学技術人材の育成を重視して取り組んでいる様々な例が見られた。中には、外国の学校と国際的な共同研究を行う例等も見られた。
- ・教育課程外の活動（部活動等）については、生徒が活発に活動し、優れた成果をあげている様子が多くの例で見受けられた。国際科学オリンピック等の理数系コンテストや学会での発表等に加えて、地域の理数教育の振興に熱心に取り組む例も少なからず見られた。

⑤ 成果の普及等に関する評価について

- ・学校内における研究成果の共有・継承として、研修や、定期的な打ち合わせのほか、教材や成果物を電子媒体で蓄積・共有したり、課題研究の指導法を引き継げるようマニュアルを作成したりするなど様々な例が見受けられた。
- ・多くの指定校において、公開の授業研究会等を実施したり、学校のホームページで情報発信したりしていた。学会等で積極的に研究成果を発表する例や、視察を受け入れている例が少なからず見られた。さらに、他県からの教員派遣を受け入れている例も見られた。各指定校においては、引き続き、様々な機会を活用して、全国に向けた成果の普及・発信に積極的に取り組んでいくことが求められる。

⑥ 管理機関の取組と管理体制に関する評価について

- ・各管理機関においては、教員の加配や、SSHに意欲的で力のある数学・理科等の教師、理系学部出身者であるALT等の配置、教員公募制、事務員の増員といった人的支援や、予算の重点配分等、様々な支援を行っていた。各指定校の特色や課題に応じた適切な支援及び指導助言を管理機関としてより一層積極的に行っていくことが望まれる。
- ・域内の関係校の連絡協議会や合同研究発表会、探究活動に関する教員研修等を開催し、取組の推進を図っている例が多く見られた。指定校が附属校であることを生かして高大連携の強化を図っている例や、指定校を地域で初めての理数科とすることを計画するなどしてSSH事業と一体的に理数教育を推進している例も見られた。ただし、地域の施策における指定校の位置づけを明らかにすることが望まれる例も一部に見受けられた。